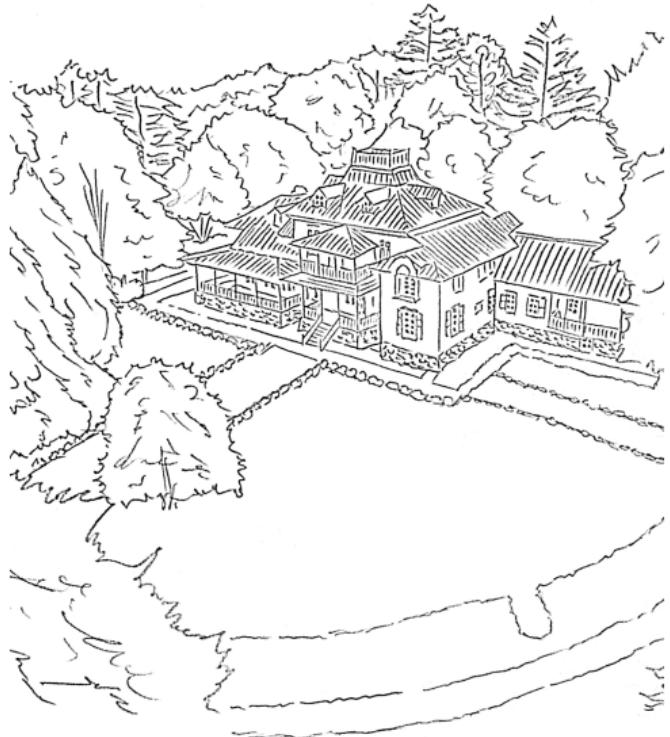


1日

旧青木家那須別邸

那須野が原に展開された華族農場における別荘文化を象徴する建物です。青木周蔵(子爵・外務大臣)はドイツ翁と呼ばれるほどのドイツ通で、自身の農場内に明治21年(1888)にドイツ様式の別荘を建設しました。

青木子爵はこの別荘を訪れるときには、黒磯駅から馬車で向かったと伝えられています。



2日

松方別邸

松方正義(公爵・内閣総理大臣)が自身の農場内に、明治36年(1903)に建てた別荘です。現在も広大な敷地を擁する千本松牧場内にあり、当時の姿を色濃く残しています。



3日

山縣有朋記念館

明治42年(1909)、山縣有朋(公爵・内閣総理大臣)晩年の別荘として知られる小田原吉稀庵に建てられた洋館です。設計者は、建築史学者の伊東忠太。大正12年(1923)の関東大震災で崩壊したため、翌年山縣農場内に移築されました。



4日

大山記念館洋館

大山巖(公爵・元帥)が自身の農場内に建てた別荘で、当初は和風別荘が建てられ、その後、農場内で焼いたレンガを利用した素朴で重厚な造りの洋館が増築されました。



5日

矢板武旧宅

開拓と那須疏水開削に尽力した矢板武の旧宅です。
現在は記念館として整備され、那須野が原開拓等に関する資料を展示・保管しています。



6日

乃木希典那須野旧宅

乃木希典(伯爵・陸軍大将)が明治25年(1892)に自ら設計した、農家風の質素な別荘です。

乃木將軍は生涯4度休職しましたが、多くの時間をこの別宅で過ごしました。敷地内には乃木將軍を祀る乃木神社があります。



7日

山田農場事務所跡

山田顕義(伯爵・司法大臣)の農場事務所跡です。山田農場及び山田家ゆかりの資料が展示されています。



8日

西郷神社

西郷隆盛の弟、西郷従道(侯爵・元帥)を祀る非常に珍しい石製の神社です。

西郷侯爵は、明治34年(1901)に従兄弟の大山巖公爵と共に経営していた加治屋開墾場を分割し、

西郷農場を経営しました。

西郷侯爵没後、農場地内に本神社が建立されました。

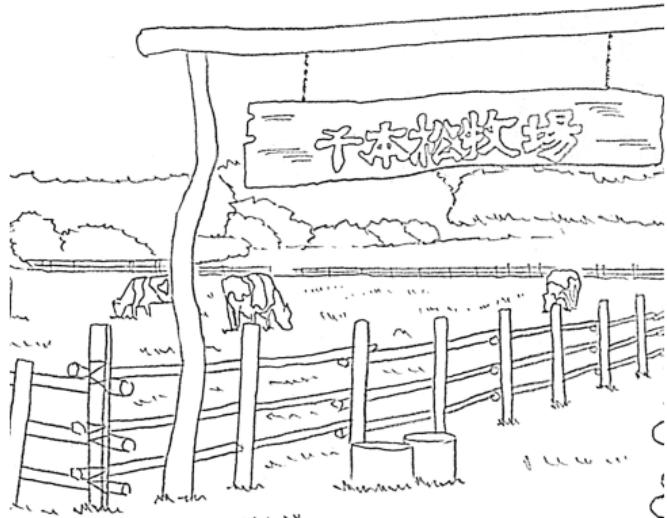


9日

千本松牧場

明治26年(1893)に松方正義が開設した農場で、最盛期は約1587haの広さを誇っていました。

現在は観光農場として観光客を迎えてますが、800haに及ぶ敷地は、当時の面影を色濃く残します。



10日

那須ワイン

渡邊葡萄園は明治17年(1884)に創業された、ブドウ作りから一貫して行う国内でも最も古いワイナリーの1つです。

日本固有種のマスカットベーリーAを用いて、創業以来変わらぬ製法で生産されています。

生前の乃木將軍が愛飲したといい、今も乃木神社に奉納されています。



11日

矢板のリンゴ

矢板市は、標高の低い土地でリンゴが生産できる南限といわれ、現在は18のリンゴ園が盛んに生産しています。

大正3年(1914)、山縣有朋が青森県から技師を呼び苗木を植栽したのが始まりとされます。



12日

南ヶ丘牧場

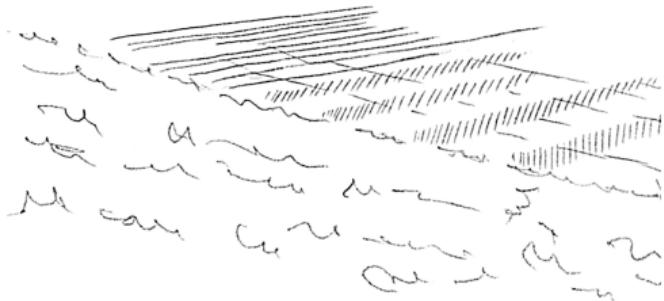
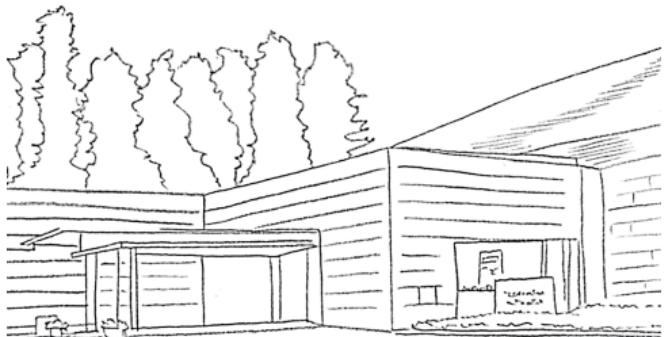
昭和24年(1949)、満州からの引揚者が入植した地域で、満州で培った畜産の知識と経験を生かし、入植当時から酪農を生産基盤とすることを見据えていました。



13日

三島農場事務所跡(那須野が原博物館)

三島通庸(子爵・警視総監)の農場事務所跡地です。
現在は「那須野が原博物館」が建ち、常設の展示室では
様々な資料と模型により、那須野が原の開拓と華族農場
の展開についての知識を得ることができます。



14日

旧塩原御用邸新御座所

三島通庸(子爵・警視総監)が塩原温泉郷に建築した別荘が、明治36年(1903)に皇室に献上されたものが前身となっています。

昭和56年(1981)に新御座所の部分のみ
現在の場所に移築されました。

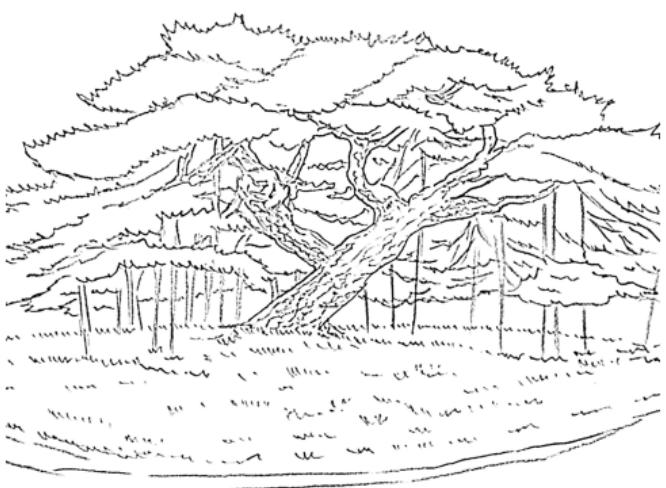


15日

山縣農場

明治19年(1886)に山縣有朋(公爵・内閣総理大臣)が開墾した農場跡です。

現在も「第一農場」「第二農場」という名称が行政区として存続しています。



16日

大山参道

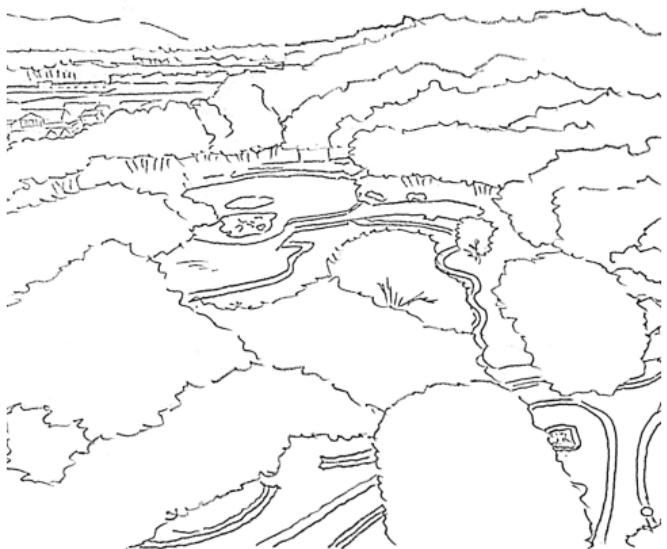
大山巖公爵は大正5年(1916)に亡くなりましたが、本人の遺志により、遺体は那須野が原の農場内に葬られました。参道は、大正6年(1917)に、宮内省技師の設計により整備されました。



17日

鳥ヶ森の丘

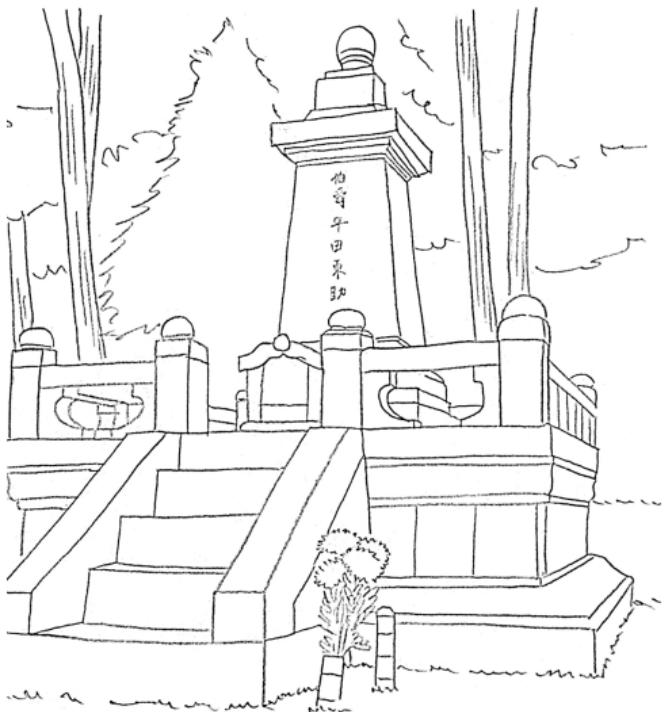
明治18年(1885)那須疏水開削の起工式が挙行された場所で、丘の上からは三島通庸が農場内を区画整理した「碁盤の目」と呼ばれる街並みを見渡すことができます。



18日

平田東助の墓

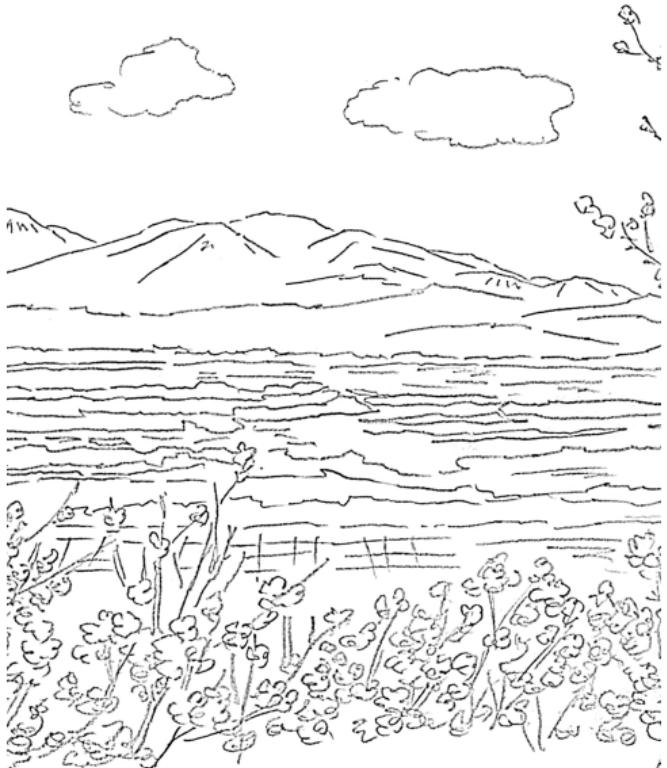
品川弥二郎から譲渡された傘松農場を経営し、信用組合（産業組合、現在の農協など）の礎を築いた平田東助（伯爵・内大臣）の墓碑です。



19日

御亭山緑地公園

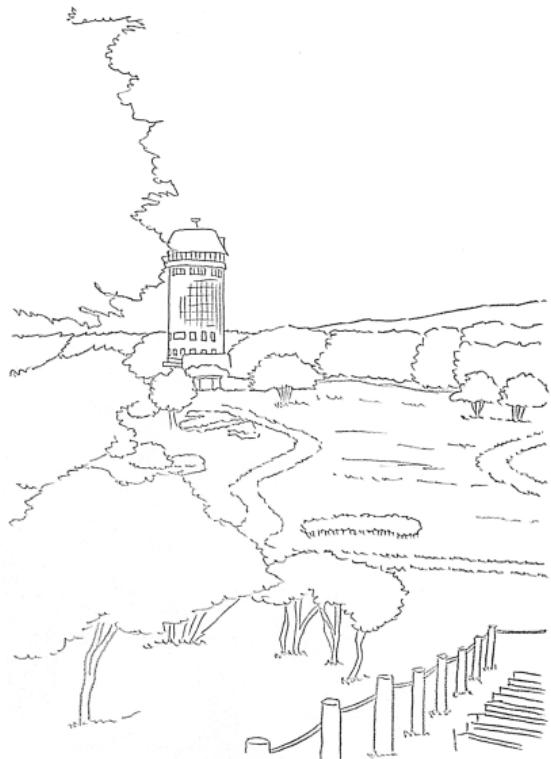
那須野が原東部に位置する標高512.9mの山で、山頂は公園として整備されており、那須野が原を一望できる景勝地となっています。



20日

那須野が原公園(県北大規模公園)

当時の原生林が残る旧千本松牧場、旧三島農場にまたがる位置に整備された県営の大規模公園です。総面積は約57haで、当時の面影を残す自然林と丘陵を活用し、那須野が原や那須連山の眺望を楽しむことができます。

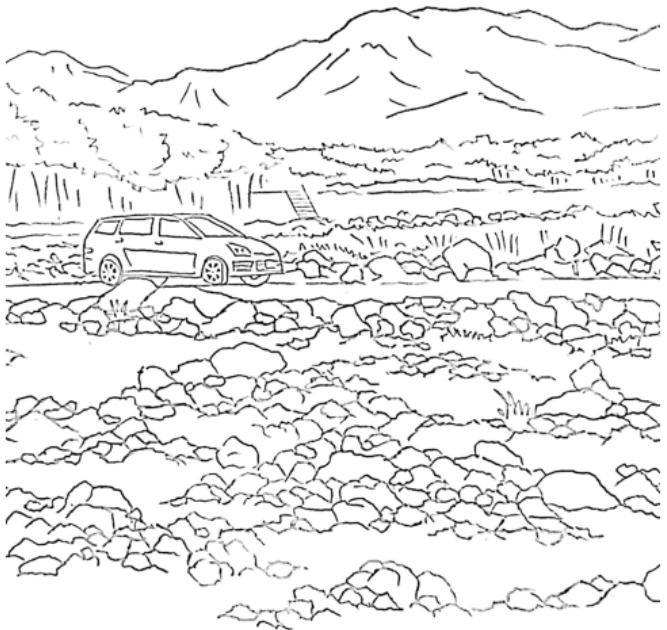


21日

蛇尾川

大佐飛山・日留賀岳方面を源流とする全長41.1kmの河川です。

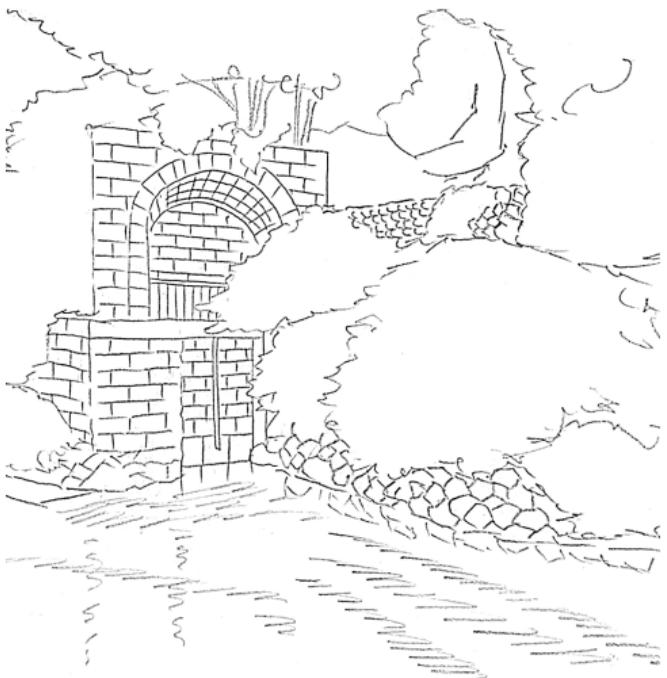
那須野が原扇状地の扇央部で伏流し約12km下流で地表に現れるため、雨期を除き延々と水のない河床が続き、所々車で横断できる場所もあります。



22日

那須疏水旧取水施設

那須野が原の灌漑を目的とし、明治18年(1885)に国営事業として開削された那須疏水の取水施設の遺構であり、那須野が原開拓事業の象徴的施設です。

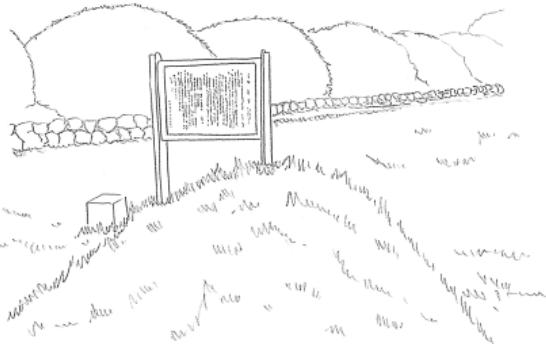


23日

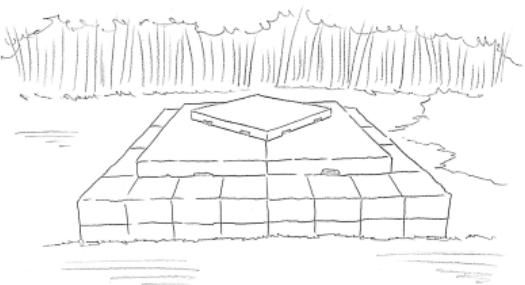
那須基線(観象台)

明治11年(1878)に設けられた測量基準線の北端点と南端点です。2点間の距離は約10.63km。

当時この区間に障害物が一切なく、2点を結んだ「たて道」と呼ばれる本州一長い直線道路が南北に走ります。



北端点

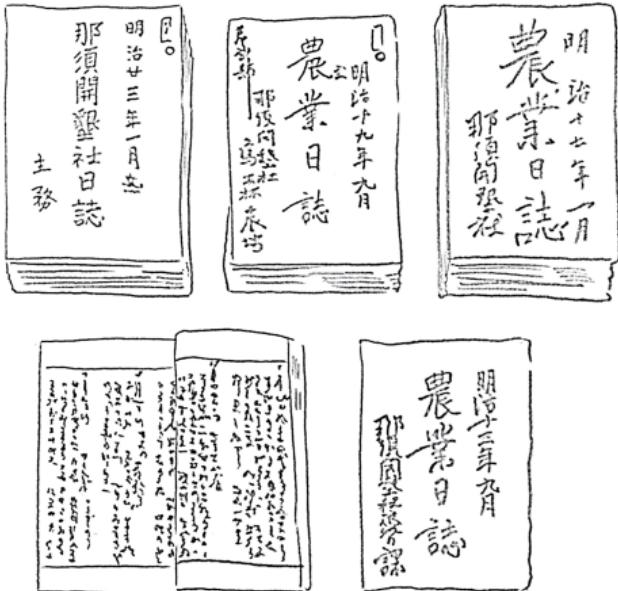


南端点

24日

那須野が原博物館収蔵資料

日本近代洋画の祖、高橋由一作《鑿道八景》や、那須野が原開拓に纏わる『那須開墾社関係文書』、『那須疏水関係文書』等が保管されています。

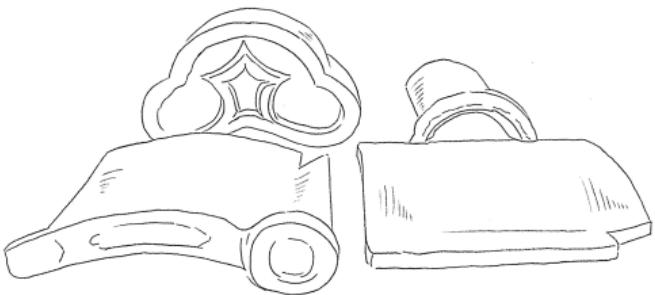


25日

旧黒田原駅舎瓦

明治19年に(1866)に宇都宮～白河間の鉄道開通しましたが、当初の計画を変更して、開拓地を縦断するルートが取られました。山田農場の一角に、旧黒田原駅は明治24年(1891)開業しました。

駅舎は老朽化により取り壊され、その名残の瓦が、現在那須歴史探訪館に展示されています。



26日

謝恩碑

明治24年(1891)に山田農場を開いた、山田顕義(伯爵・司法大臣)及び山田家への謝意を記した碑です。昭和30年(1955)建立されました。



27日

「拓魂」碑

「戦後開拓」としての金丸原開拓の歴史と、開拓初代の氏名を記す記念碑で、昭和51年(1976)に金丸原開拓農業協同組合により建立されました。

碑の立つ敷地には、旧金丸原開拓農業協同組合事務所があり、金丸原開拓の拠点でした。

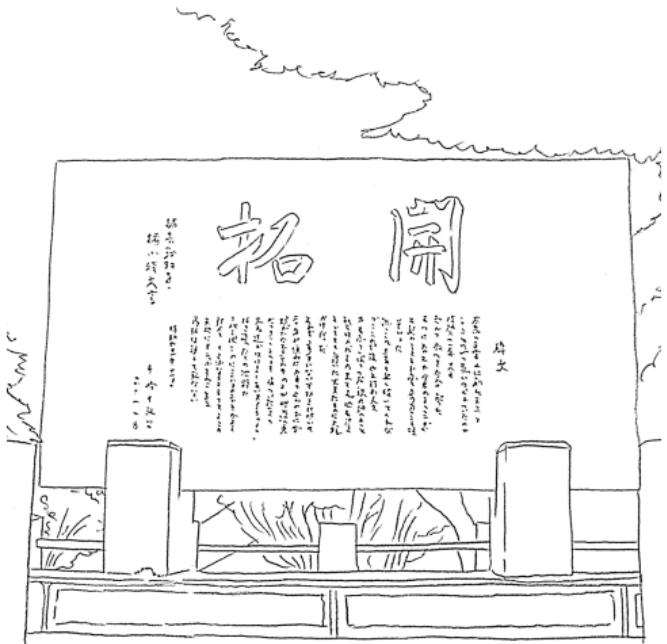


28日

「開拓」碑

那須野が原北部の未開地には、戦後、旧軍人や満州からの引揚者が入植し痩せた大地を開墾しました。

雄大な那須岳を望む千振開拓地に建つ記念碑には、厳しい開拓の様子が刻まれています。



29日

大田原市歴史民俗資料館収蔵資料

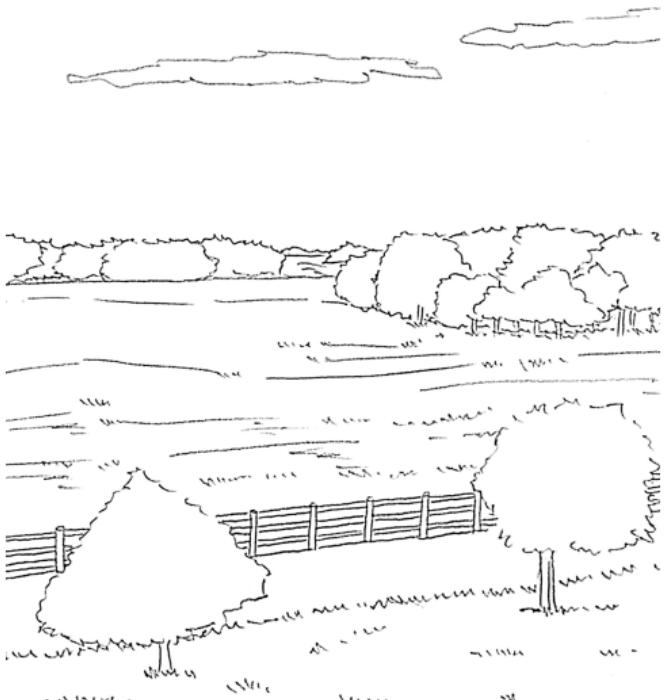
大正14年(1925)に作図された『傘松農場土地台帳図』や
『傘松農場事務所』関係の図面などが保管されています。



30日

大田原市大野放牧場

大田原市営牧場で、牧区面積は約27haあります。
明治期には御料地でしたが、後に陸軍演習場用地となり、
戦後は「金丸原開拓」として開拓が進められました。



31日

那須町共同利用模範牧場

那須連山の東南斜面、酪農乳用牛の効率的な育成を目的として、戦後開拓により作られた、敷地330haを有する放牧場で、現在の那須の風景を象徴しています。



日本遺産 明治貴族が描いた未来
～那須野が原開拓浪漫譚日めくりカレンダー～

Japan Heritage at Nasunogahara

